

第4回国際フィットネスコンベンション in KOBE を終えて

- これまでの3回のコンベンションそして、第4回の今回でも神戸市東灘区・六甲アイランドで「健康とスポーツのまちづくり」の推進を産学官民でできました。
神戸大学 高田義弘先生のご尽力により、シニアの為の貯筋プログラムを中心として「神戸健康づくり体操シニア版」の実践教室を展開しています。
今後、健康づくり体操子供版はパウロが振付した楽しいプログラムです。
この体操を六甲アイランド内の小学校で継続的に実践していけたら、より成果が見られると思っております。
神戸市全体に、兵庫県に、この健康づくり体操が東灘区発信として広がっていく事を期待しております。

- エアロビクス全国大会、リズムダンス全国大会、アジア大会の開催は、盛況のうち、無事に終了する事ができました。
時代の流れを考えさせる大会が、リズムダンス全国大会でした。
私が30年前に日本でエアロビクス競技大会を初めて開催した時と同様に大きな波、そして勢いを感じ、近い将来ブームになる予感を感じました。
又、アジア大会は、アメリカや中国やコロンビアから多数の子供達を中心に100名以上の海外選手が参加し、華やかな大会となりました。

- 中国広東省とのスポーツ国際交流も2年目を迎え、中国選手団は今回53名が来日しました。
アジア大会の翌日に、六甲アイランド小学校・六甲アイランド中学校を表敬訪問し、お互いの演技を披露したり、又、給食を共にし有意義な国際交流が出来たと思っております。
来年は、「日中青少年交流の年」と決定しております。
私たち連盟からは、来年11月に広東省2都市を約60名のエアロビクス&リズムダンス代表団が訪問する予定です。
私は、広東省 人民対外友好協会 海外理事を任命されており、神戸市からも子供たちのスポーツ選手団が広東省を訪問できるようになることを望んでおり、協力していきたいと思っております。

□ 神戸市・東灘区・六甲アイランドへの経済効果について

今年を含め4年間で約11,000名が六甲アイランドを訪問しました。

そして、当連盟は4年間に渡り、大きな経済還元を地元にしてきました。

今後も、少しでも神戸市・東灘区・六甲アイランドと連動して、地元に貢献していきたいと思っております。

第30回 全日本エアロビクスコンテスト全国大会を終えて

今年は何30回の記念大会でした。

今年もエアロビクスを踊る子供達の素晴らしい演技に感動しました。

本当にエアロビクスを踊る子供達は、均整のとれた身体、身体能力も高く、笑顔も美しく素晴らしさを再度認識しました。

これからは国際社会の時代、頑張っている子供達に、私たちは何をしてあげられるかと常日頃考えております。

私達にしかできない、国際スポーツ大会や国際交流を第一に、そして、エアロビクス業界の将来を荷う子供達への新たなサポートの仕方を考えていきます。

又、お元気なシニアの方々には、長年に渡り、大会を盛り上げていただき心から感謝しております。

これからも、末永くエアロビクス大会を楽しんでいただくためには、どうしたらよいか？

怪我もなく、楽しく練習し、その成果を発表していただくにはどういう大会にしたらよいか？

早い時期に来年度の方針を発表いたします。

これからも一緒にエアロビクス大会を支えていただき共に歩んでほしいと思っております。

第2回 リズムダンス選手権全国大会を終えて

第2回目の今回、11 県連より 36 チーム約 400 名の参加がありました。

大会当日会場は大盛況で、約 1,500 名の来場者となり、多くの立見も出て大変な熱気につつまれました。

リズムダンスは、それぞれ華やかな衣装・楽しい創作、観ている方々が本当に楽しそうでした。

観ていて楽しい、踊って楽しいリズムダンス大会でした。

来年は、25 県連からの代表を考えております。

新ルール説明会も来年 2 月以降、全国の県連で開催されます。

私が 30 年前にエアロビクスの競技大会を日本で初めて開催し、またたくまに、全国各地でエアロビクスブームを巻き起こしたと同様の勢いを感じております。

全国のリズムダンス愛好者・各県連とともに、楽しい大会そして、ダンス業界唯一の競技スポーツ大会として、確立していきます。

第8回 アジアエアロビクス選手権全国大会を終えて

第8回を数える定着して国際大会として、認知されるようになりました。

今年は、中国・アメリカ・コロンビアなどから約100名の海外選手が参加しました。

将来を荷う子供たちが中心となりました。

来年からは、エアロビクス&リズムダンスの国際大会としていきます。

そして、世界のフィットネス業界の著名な指導者を招き、幅広い大会にしていきたいと考えております。

来年はアジア7ヶ国、そして、世界各地から5ヶ国の12ヶ国約200名の海外選手と多数の日本選手との国際スポーツ交流大会を目指します。